



レジリエンスの高まり

アニュアルレポート 2020





教育は変革をもたらします。ルーム・トゥ・リードでは、20年の歴史の中で、プログラムの恩恵を受けた2,380万人以上の子どもたちの人生が変わる様子を目の当たりにしてきました。教育の力で、子どもたちは成長し、夢を見て、やがて世界を変えます。

世界中を席卷した新型コロナウイルス感染症は、さまざまな形でコミュニティ、家族、子どもたちに壊滅的な打撃を与え、世界中の子どもたちの多くが教育を受けられなくなりました。他の災害と同様に、十分な支援を受けていない地域の子供たちは、短期的にも長期的にも、有害な影響を特に受けやすくなります。少女たちにおいては、学習に遅れをとり、退学や早婚を迫られ、家計を支えるための児童労働に追われ、家庭内暴力や育児放棄のリスクにさらされるリスクが高まっています。

この危機の中で、ルーム・トゥ・リードは、子どもたちを支え続けてきました。識字能力とジェンダー平等の活動における数十年の経験を活かして、学校閉鎖期間中も子どもたちと連絡を取り続けられるよう、すぐにアプローチを調整しました。このレポートでは、パンデミック下で教員、子どもたち、家族などを支援するために、ルーム・トゥ・リードが行った革新的なやり方を紹介しています。不安や悲劇の時代でも、教育には、子どもたちを元気づけ、困難から回復する力(レジリエンス)を養う力があります。

世界中のコミュニティの支援により、ルーム・トゥ・リードは、2020年だけでも490万人の子どもたちを支援することができ、克服不可能とも思える障害を乗り越えて、夢を追い続けることができるようになりました。皆さまのおかげで、2019年には新しいアプローチにより、支援する子どもたちの人数が2倍を超えました。これらの戦略が実施することで、2025年までに4,000万人の子どもたちが恩恵を受けることになります。

私たちは、目前の課題に立ち向かっているところですが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる教育危機は、まだ終息していません。世界中の教育システムの将来が不透明な中、生徒と教育者は、依然として、学習機会の損失に対処するため早急の支援を必要としています。私たちは、2021年も、支援しているコミュニティの変化するニーズに適応し、必要に応じて、リモート・プログラムを提供し続けてきました。何が起ころうとも、ルーム・トゥ・リードはこれからも、パンデミックから復旧と復興の段階に至るまで、子どもたちと教育者を支援し続けます。

表紙の表側と裏側に、ルーム・トゥ・リード発行の南アジアの児童書『*Elephant Runs* (仮訳: ぞうがはしる)』の挿絵を掲載しています(イラスト: イラナ・エクセルビー、文章: ルーム・トゥ・リードのスタッフ)。





ルーム・トゥ・リードをご支援くださる皆さまへ

私たちは、2020年をルーム・トゥ・リードの活動を記念する年、つまり、20年の歴史の中で2,000万人以上の子どもたちに貢献してきたことを記念する年にしようと考えていました。ところが、未だかつてない問題に直面することになりました。パンデミックは、社会の根幹を揺るがし、人々を孤立させ、不平等を悪化させると同時に、世界の子どもたちに教育を提供するというルーム・トゥ・リードのミッションがより重要なものであることを確信する年となりました。教育システムは、医療システムと同様に大打撃を受け、学校閉鎖により、16億人の学生が自宅での学習を余儀なくされました。

混乱と苦難にもかかわらず、2020年は、グローバル・コミュニティが一丸となることで、どれだけ多くのことを達成できるかも分かりました。皆さまのご支援により、子どもたちの未来を守り続けることができました。生徒たちが学び続け、夢を追いつけられるよう団結したことで、周囲の至る所でレジリエンスが高まりました。

この一年間で、学生たちのニーズの変化に合わせてプログラムを機敏に調整する中で、その過程で490万人の子どもたちを支援しました。これは前年の二倍にあたる数字です。ノーテックからハイテックまで、さまざまな教育プログラムを立ち上げ、どのような状況下にいる子どもでも支援を受けられるようにしました。私たちが活動しているコミュニティの家庭の多くでインターネット・アクセスがないため、印刷した教材を学生たちに配布して、保護者にその使い方を指導しました。少女たちについては、中退を強いられることが多くなるため、テキストメッセージや電話によるリモート・メンタリングで支援を続けました。また、国や地方のネットワーク向けに、テレビやラジオの番組を作成して、ロックダウン中でも想像力を刺激し、安らぎ、喜び、息抜きを提供できるようにしました。さらに、デジタル・ライブラリー・プラットフォームであるリテラシー・クラウドに投資し、より多くの若者が、読書を通じて、自分自身を見つめることや、自分のコミュニティ、自分が置かれている状況、さらに自分の経験につい

て考えることができるようにしました。

多くの場合、ルーム・トゥ・リードは、子どもたちにとって唯一の学習の場であり、未だに、学校閉鎖を余儀なくされている南アジアと東南アジアの多くのコミュニティに当てはまります。タンザニアと南アフリカでは、今のところほとんど開校していますが、パンデミックの拡大が続いているため、将来は不透明です。

いつになれば、学校閉鎖が終わり、学習の機会を設けられるようになるかは、分からないままですが、子どもたちが喪失した学習機会を取り戻す上で、ルーム・トゥ・リードが極めて重要な役割を果たすことになるのは確かです。このような状況から、私たちは、今まで以上に活発化し、インスピレーションを受けています。

冒頭のページにある蝶は、子どもたちの学習のために並々ならぬ努力をしている家族の姿から、私たちが抱えている希望を象徴しています。蝶は、少女たちの未来を教育によって支えることで、人々やコミュニティがその支援を受けられることを表しています。また、蝶を見ていると、蝶の羽ばたきほど小さなものが、遠く離れた場所で大きな影響を及ぼすという科学的理論、つまり、バタフライ効果のことを考えられます。

昨年、私は、パートナー・コミュニティ、1,600人のスタッフ、理事会役員、支援者、政府・企業パートナー、支部のボランティアなどが、かつてないほど「羽ばたき」、教育を前進させる姿を見て、感謝の気持ちでいっぱいになりました。今後の道のりは、平坦ではありませんが、皆さまと一緒に勢いを付けていきたいと思っています。大小さまざまな活動によって、何百万人の子どもたちが、それぞれの未来を切り開いていくための教育を提供していきます。これからも、皆さまと、歩んでいけることを光栄に思います。どうぞよろしく願いいたします。

ギーター・ムラーリ博士、CEO



親愛なる友人の皆さま

ルーム・トゥ・リード20周年という重要な節目を祝う方法はたくさんありますが、世界的なパンデミックにより、教育における進展が取り返しのつかないほど後退する中で、ルーム・トゥ・リードは、教育とジェンダー平等を推進してきた20年目に、一年で恩恵を受けた子ども数が二倍になるという、最も相応しい形で記念しました。

さすがに新型コロナウイルスには不意を突かれましたが、ルーム・トゥ・リードは、国や文化を超えて活動してきた20年以上の歳月をかけて、忍耐だけではなく、成功するための成熟度と適応力を培ってきました。ルーム・トゥ・リードは、その20年の歴史の中で、革新の精神を育み、新型コロナウイルスにより、突然、何カ月も学校に行けなくなってしまった子どもたちのために、ルーム・トゥ・リードならではの貢献をする準備を整えてきました。クリエイティブなルーム・トゥ・リードは、児童やその家族が暮らしているところで面会できるように工夫しました。教育者にはオンラインで授業をするための教材を提供したり、自転車、小舟、ときにはラクダに乗って、子どもたちに本や教材を届けたりしました。

イノベーションは、成功方程式の一部にすぎません。ルーム・トゥ・リードの成長を支えている別の要因は、コミュニティへのコミットメントです。10人に9人の割合で、ルーム・トゥ・リードのスタッフは、ルーム・トゥ・リードが活動している国で暮らし、働いています。誰もが専門家であり、強い絆で結ばれ、最も困難な状況でも、政府、市民機関、家族と協力して、学習の機会を巧みに創出しています。

ルーム・トゥ・リードのコミュニティへのコミットメントには、他の形があります。ここ18か月間に、リーダーシップチームは、教室に戻るこ

とを切望している子どもたちのために、そして進行中の障害を乗り越えるために、先例のない方法で団結しました。世界各地のスタッフが、事務所閉鎖期間中にも、仲間意識を高め、ミッションを遂行するための斬新な方法を見つけました。新型コロナウイルスのデルタ変異株が地域社会に壊滅的な打撃を与える中で、グローバル・ネットワークはバーチャル募金活動を通じて、インドとその周辺国を支援しました。私たちはお互いに力を合わせ、また、あらゆる困難にもかかわらず学習を続けている子どもたちや家族の数え切れないほどの物語からもパワーをもらいました。何百万人の子どもたちとその家族にとって、ルーム・トゥ・リードは暗い年の明るい場所でした。その成果から希望を得ることができました。同じようなことを感じている仲間が他にもいると思います。ルーム・トゥ・リードは、壮大な目標を掲げています。その一つは、2025年までに4000万人の子どもたちを支援するという。私は、この目標を達成できると確信しています。2020年は、柔軟性、優しさ、革新性をもって、どんな課題にも対応できることを示しました。その道のりにおいて、支援者とボランティアの強固なネットワークが、揺るぎない献身を示してくれたことに感謝しています。皆さまの信頼と支援により、ルーム・トゥ・リードは、目の前にある課題に立ち向かい、非識字とジェンダー不平等を過去のものにしていきます。皆さまのコミットメント、そして皆さまがこのコミュニティの一員であることに感謝します。皆さまの協力があつてはじめて、私たちの活動は可能になります。

メアリー・パイロン 理事長

活動状況

2020年末の時点で、私たちは2,380万人以上の子どもたちを支援し、20カ国で活動していました。そのうち、新たに支援を受けた子どもの数は、2020年だけで490万人です。パンデミックに伴うさまざまな課題を克服するために考え出されたイノベーションにより、多くの子どもたちを支援することができました。

このページに使われている作品は、ルーム・トゥ・リードの平和と平等をテーマにした作品集に収容されています。

題名：『What is Peace?(平和って何だろう?)』
(イラスト:カット・ヤオ、文章:ジョン・ラサック)。

グローバル

恩恵を受けた子どもたち

累計¹:

2,380万人以上

活動地域

国:

20カ国

コミュニティ:

4万8,000以上

女子教育

恩恵を受けた女子

2020年初:

270万人以上

累計²

280万人以上

識字教育

恩恵を受けた子どもたち

2020年初:

220万人以上

累計:

2,000万人以上

中等教育修了者

2020年初:

1,821人

累計

11,416人

識字教育プログラム導入校

2020年初:

6,680校以上

累計:

4万8,000以上

新規に研修を受けた教師:

3万6,000人以上

児童書

2020年原作

新作品:

92作品

2020年新規

採用作品:

1,400作品

累計(原作+採用作品):

4,777作品

¹ 以前のルーム・トゥ・リードのプログラムも併せて、ルーム・トゥ・リードの識字教育と女子教育の活動の恩恵を受けた子どもたちの累計数。

² 女子教育プログラムを通じて恩恵を受けた子どもたちの累計数は、2020年に著しく増加しました。2019年末の時点で、この数字は11万4,900人でした。数値がこのような大幅に増加した背景には、新型コロナウイルスの大流行時、ラジオやテレビ番組などの新しい方法で少女たちを支援し、より多くの視聴者に早く届けることができたことがあります。この数字は控えめな見積です。放送内容の質を慎重に検討し、この種の内容の視聴率および聴取率に関する最善のデータに基づいています。

ここでカウントされた子どもたち全員が必ずしも包括的な対面式のプログラムに登録されていたわけではありませんが、ルーム・トゥ・リードの支援によって、具体的かつ測定可能な方法で恩恵を受けています。

教育を通して世界を変えてきた20年を記念して

20年間で20カ国の子どもたちに貢献

2000年の設立以来、ルーム・トゥ・リードは、世界20カ国で2,380万人以上の子どもたちが教育を通じてその可能性を最大限に発揮できるよう支援してきました。

識字教育、女子教育、ジェンダー平等のポートフォリオは、四大陸の子どもたちを支援しています。プログラムの効果が立証されたことで、現地のNGOや教育省、政府機関などと協力し、公立学校のシステムでのプロジェクトを拡大することができるようになりました。

ルーム・トゥ・リードは、その活動を通じて、バングラデシュ、カンボジア、グレナダ、ホンジュラス、インド、インドネシア、ヨルダン、ラオス、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、ルワンダ、南アフリカ、スリランカ、タンザニア、アメリカ合衆国、ウガンダ、ベトナム、ザンビアの子どもたちを支援してきました。



創設者たちからのメッセージ



左から: ディネシュ・シュレスタ, エリン・ガンジュ, ジョン・ウッド

2020年、ルーム・トゥ・リードは組織として20周年を迎えました。ルーム・トゥ・リードは世界中のすべての子どもたちに本と教育を、という共通のビジョンのもと、2000年にジョン・ウッド、ディネシュ・シュレスタそしてエリン・ガンジュによって創設されました。

それ以来、1,600人以上のスタッフが20カ国で活動し、高い評価を得ている識字教育と女子教育プログラムを通じて2,380万人以上の子どもたちに支援を行っています。創設者たちはこの節目を次のように振り返っています。

「わずかな資金でネパールだけを対象に活動を始めたのが昨日のことのように感じられますが、今では教育を通じて子どもたちの人生を変えるグローバルな組織となっています。あっという間に20年が経ちました。私たちはこれまで、多くのことを経験してきましたが、共に目的を貫き、子どもたちが想像以上のことを成し遂げられることを示してきました」。ディネシュ・シュレスタ、共同設立者

「重要なことは、何百万人もの子どもたちに教育の機会を提供するだけでなく、私たちがその教育の質にもこだわっていることです。子どもたちは自分の国の言葉で読むことを学び、学校では素晴らしい図書館を利用できます。私たちの女子教育プログラムに参加している少女たちは、中等教育を修了するだけでなく、自分の将来を決めることができるライフスキルを身につけているので、人生において自分で選択することができます」。エリン・ガンジュ、共同創設者

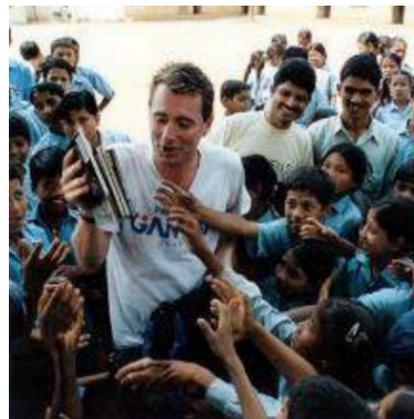
「私が最も誇りに思っていることは、ルーム・トゥ・リードはこれまで他の団体がやったことのないことを成し遂げたことです。資金力がなく、リソースにも乏しい無名の組織からスタートしましたが、私たちは世界的なムーブメントを築いてきました。影響力、データ、指標それぞれに対応し、未来を永遠に変えるために必要なツールを備えていることを証明しました」。ジョン・ウッド、創設者

教育を通して世界を変えてきた20年を記念して

過去20年間のハイライト



1998年: ジョン・ウッド氏はネパールのヒマラヤのある学校を訪れた際、マイクロソフトのエグゼクティブ職を辞めてまで、共同創設者ディネシュ・シュレスタと共にブックス・フォー・ネパールを始めるという着想を得ました。ブックス・フォー・ネパールでは、学校を建設し、寄贈された英語の本で満たされた図書館を設立することに焦点が当てられました。



2000～2001年: ブックス・フォー・ネパールの正式名が、ルーム・トゥ・リードとなりました。エリン・ガンジュが、共同創設者兼チーフオペレーティングオフィサーとしてチームに加わりました。ルーム・トゥ・リードの女子教育プログラムが始まりました。ルーム・トゥ・リード・ベトナムが始まりました。

2002年: ルーム・トゥ・リード・カンボジアが始まりました。



2003年: ルーム・トゥ・リード・インドが始まりました。ルーム・トゥ・リードが現地の言語で児童書を制作するために、現地語出版を開始しました。ルーム・トゥ・リードの募金活動を拡大するために、最初のボランティア支部がカナダ、英国、米国に設立されました。

2005年: ルーム・トゥ・リード・スリランカ、ルーム・トゥ・リード・ラオスが始まりました。

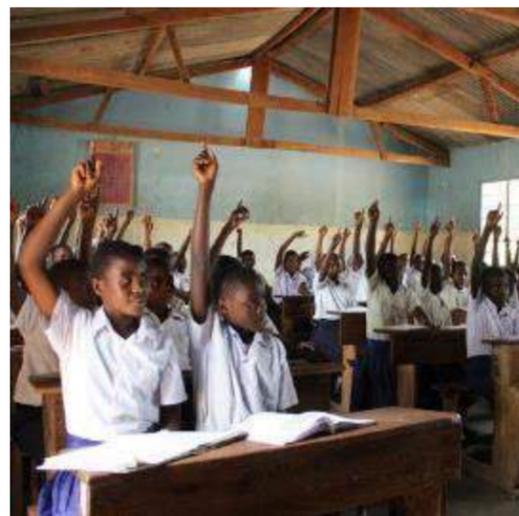


2006年: ルーム・トゥ・リードはアフリカ大陸に拡大し、南アフリカでの活動が始まりました。

2008年: ルーム・トゥ・リード・バングラデシュ、ルーム・トゥ・リード・ザンビアが始まりました。ルーム・トゥ・リードは、生徒に読書することを教える教育者を支援するために、「インドで読み書きの指導」の試験運用を開始しました。



2010年: 識字教育のパイロットがラオスとザンビアに拡大しました。ルーム・トゥ・リードのプログラムが識字教育と女子教育にまとめられました。ルーム・トゥ・リードが設置した図書館・図書室が1万件になりました。



2012年: ルーム・トゥ・リード・タンザニアが始まりました。

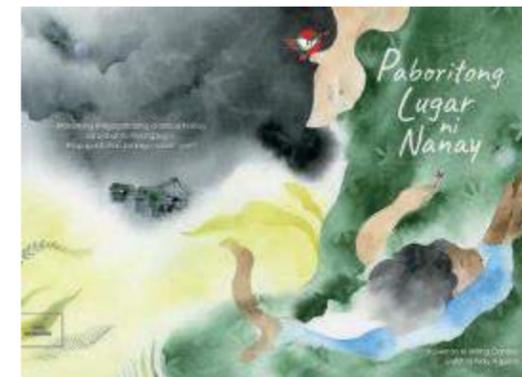
2014年: ルーム・トゥ・リードは、学校図書館を拡張し、地元の本屋出版能力を構築するために、インドネシアで初めての技術支援プロジェクトを開始しました。



2015年: ルーム・トゥ・リードが1,000万人の子どもたちをサポートするという節目に達しました。識字能力を向上させ、子どもたちの中で読書の習慣を育む技術支援プロジェクトをグレナダで開始しました。

2016年: ルーム・トゥ・リードは、USAID、ケモニクス等パートナーと共に、乳幼児からの読書体験を改善する技術支援プロジェクトを開始しました。

2017年: Google.orgの支援を受け、リテラシー・クラウドという、ルーム・トゥ・リードのデジタル図書館を構築しました。ルーム・トゥ・リードは、シリア難民や帰還民コミュニティを支援するためにヨルダンでアラビア語のストーリーブックを開発し、配布するプロジェクトを開始しました。



2018年: ルーム・トゥ・リードは、ホンジュラスでは出版プロジェクトならびに教員実習プロジェクトを開始し、ミャンマーでは学校図書館プロジェクトを開始しました。私たちは2018年末までに1,650万人以上の子どもたちを支援し、2020年までに1,500万人の子どもたちを支援するという目標を上回りました。ギータ・ムラーリ博士が、ルーム・トゥ・リード初の非創業者CEOに就任しました。

2019年: フィリピンで書籍出版プロジェクトが始動しました。フィリピン語の本が配布され、新刊についてはラジオ番組が制作上映されました。



2020年: ルーム・トゥ・リードは、従来のプログラムをリモート学習型に適合させることでコロナ禍における学校閉鎖に対処しました。コロナ禍で、十分なサービスを受けられない人々を支援したことが評価され、米国議会図書館の識字教育賞プログラムの「デビッド・M・ルーベンシュタイン特別対応賞」を受賞しました。パキスタンとウガンダで図書館を設立したり、ルーム・トゥ・リードの絵本を現地の状況に合わせて調整したりするための技術支援プロジェクトを開始しました。

新しい戦略計画「ビジョン2025」を立ち上げました。2025年までに4,000万人の子どもたちが恩恵を受けられるよう取り組みます。

夢を叶えるために



早期識字教育

新型コロナウイルスの感染拡大によって引き起こされた教育危機により、何百万人もの生徒たちが永久に教育上不利な状況に置かれる可能性があります。小学校低学年のうちに識字能力と読書の習慣を身につけることは、その後の教育に強い基盤をもたらすために非常に重要です。

このページには、ホンジュラスでルーム・トゥ・リードが発行した絵本『Kim Discovers the River (仮訳: キムが川を見つけたよ)』の挿絵があります (イラスト: ウエンディ・マイレナ、文: マリア・ホセ・モンテシノス)。

2020年の識字教育のハイライト

子どもたちが学び続け、生涯学習者になる軌道に乗れるよう、危機的な状況においても、ルーム・トゥ・リードは識字教育プログラムを調整しながら、革新的な方法で子どもたちにアプローチしています。活動は以下の通り:

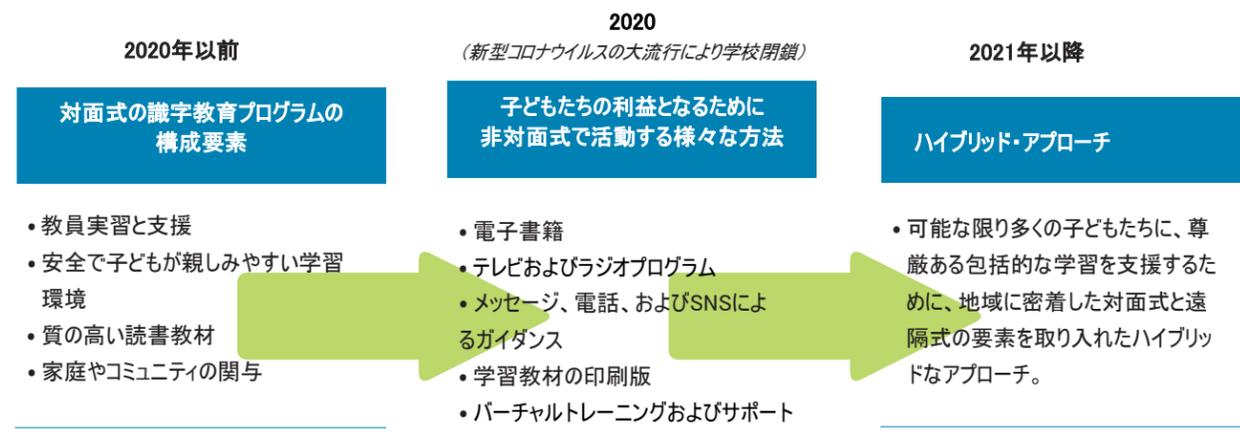
- 親が識字者であるかどうかに関わらず、自宅で子どもたちの学習を行うためのツールと知識を親に提供する
- 教育者を対象としたバーチャル・トレーニングを提供する
- メッセージング・プラットフォームを通じて、児童や家族と連絡を取り合う
- インターネットにアクセスできない人たちに資料の印刷物を配布する
- ラジオやテレビで読み聞かせを行う
- 現地語の児童書をオンラインで公開する

学校閉鎖やその他の多くの課題に生徒が直面しても、このようにリモートで介入することで、識字能力の向上を支援できます。また、ルーム・トゥ・リードの活動範囲を拡大し、これまで以上に多くの子どもたちが恩恵を受けることができます。コロナ禍が終わり、学校が再開し、通常のスケジュールに戻った後でも、プログラム構成を進化させ、インパクトを拡大するために、これまで学んできた重要な教訓を活用します。

ルーム・トゥ・リードでは、特に孤立した時代には、人と人のつながりを持ち続けるため、読み書きが重要と考えています。本は子どもたちに世界への扉を開きます。子どもたちは家にいながらにして、さまざまな場所に飛び立ち、新しい体験をすることができます。

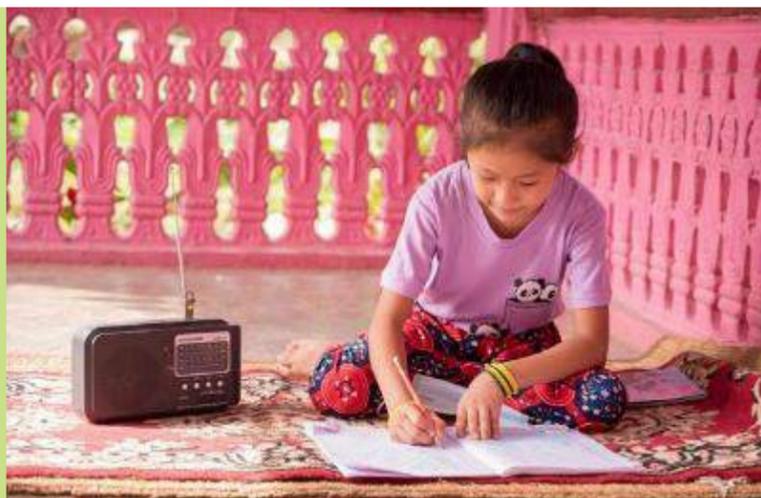
新型コロナウイルス関連のプログラム革新

次のセクションでは、2020年の活動を紹介していますが、私たちの活動地域では新型コロナウイルス感染症の大流行とそれに伴う学校閉鎖が続いているため、2021年もこれらのプログラム適応を継続していることに留意する必要があります。



「いつもと同じように始まった1年が、新しい働き方の新境地を開き、創造する年となりました。驚くほど精力的かつ献身的なチームメンバーのおかげで、ラジオ、電話、教材などの方法を通じて、子どもたちや家族と連絡をとり、私たちが活動している地域で、自宅学習を続けることができました」。

プシュカ・シュレスタ
ネパール カントリー・ディレクター



電子書籍へのアクセス

ルーム・トゥ・リードが、Google.org社のサポートを受けて開発した**リテラシー・クラウド**(英語および支援地域の言語)は、教育者のための実習教材と児童書の電子ライブラリを提供します。2020年、ルーム・トゥ・リードはリテラシー・クラウドを大きく拡張しましたが、これはコロナ禍でリモート学習する子どもたちのニーズに対応するためでもありました。リテラシー・クラウドには今や、30言語の1,750作品以上が収容されています。ウェブサイトでは、豊富な読み聞かせ動画に加え、教育者、出版社、著者、イラストレーターなどのためのリソースや指導動画を利用できます。

- 2020年:
- 143カ国から20万8,016人のユニークユーザーがリテラシー・クラウドを訪問
 - 4万6,783冊の本を完読
 - 22カ国語の1,172作品を追加

テレビおよびラジオプログラム

インターネットが普及していない低所得者層地域や農村部で活動することが多いため、識字教育コンテンツをさまざまな媒体で提供しました。南アジアではテレビが広く普及しているため、ルーム・トゥ・リードはインド、バングラデシュ、およびスリランカのテレビ局と協力して、への配信を行いました。また、力を合わせて、子どもたちのための児童書読み聞

かせプログラムや、親たちが家庭で子どもに読書習慣を付けさせるためのコツのような、識字教育に注目したテレビプログラムを制作しました。

ラジオは未だに世界中で最も広く利用されている技術です。そのため、私たちは識字教育ラジオプログラムをネパール、インド、南アフリカ、タンザニア、およびスリランカに導入しました。子どもたちはルーム・トゥ・リードのスタッフの読み聞かせにチャンネルを合わせ、さらに一部地域では読み書きの授業にも参加できます。

- 2020年:
- 387件の識字教育テレビプログラムをインド、バングラデシュ、およびスリランカで放送
 - 1,178件の識字教育ラジオプログラムをネパール、インド、南アフリカ、タンザニア、およびスリランカで放送

その他の手段を利用した取り組み

ルーム・トゥ・リードは、ダイレクトメッセージ、電話、およびEメールを使用し、親子で識字スキルを高め、家庭での読書習慣を身に付けられるよう取り組んでいます。保護者に読み書きのコツをテキストメッセージで送信したり、読み聞かせをWhatsAppメッセージで送信したり、事前に録音した読み書きコンテンツのためのフリーダイヤルを準備したりしました。また、プログラムの目標をさらに達成するためにSNSにも投稿しました。

2020年:

- 各国のチームは合わせて1800万以上のメッセージを教育者、生徒、その家族などに送付
- ルーム・トゥ・リードは、このコロナ禍に、識字力向上のために867作品以上のコンテンツを投稿

紙に印刷された学習教材

可能な限り、本やワークシートなどの学習教材を家庭に提供し、子どもたちが紙に印刷された学習教材を利用できるようにしました。学校やその他の組織と提携して、印刷物を子どもたちの家に届けました。一部のコミュニティでは、ルーム・トゥ・リードからの教材は、子どもたちがコロナ禍で受け取った唯一の学習教材でした。

2020年

- 61万5,486人の子どもたちに紙に印刷されたルーム・トゥ・リードの識字教材を提供

バーチャル・トレーニングおよびサポート

コロナ禍で、非対面式活動を通じて、教育者、学校のリーダー、本の制作者、保護者などの関係者の能力を高めました。リモートサポートにより、子どもたちは学校閉鎖期間中も学び続け、学校が再開した際には学習機会の損失を取り戻すという決意を維持することができました。

2020年

- 識字教育に関する2万6,716時間のバーチャル・トレーニングとサポートを教育者、学校のリーダー、著者、イラストレーターなどに提供



デービッド・M・ルーベンスタイン特別対応賞

ルーム・トゥ・リードは、米国議会図書館の識字教育表彰プログラムから、デービッド・M・ルーベンスタイン特別対応賞を受賞した三つの団体のひとつです。この賞は、新型コロナウイルスが及ぼしたパンデミックと社会不安に挑み対応する最良の実践モデルとしてルーム・トゥ・リードが認められたことを意味しています。

ハルミートさん

インド 7歳

新型コロナウイルスに伴う学校閉鎖は、インド・ウッタラカンド州で暮らしている7歳のハルミートさんにとって、とても辛いことでした。ハルミートさんは、学校に行けなくなり、お友達と遊ぶこともできなくなってしまいました。

そのなかでも、学校の読書のセッションがなくなったことは特に残念でした。両親のラジビンダーさんとスークデブさんは、気落ちしている息子の様子を見て、担任の先生に電話して、息子を励ますための教材を求めました。幸い、ハルミートさんの元にはすぐに支援が届きました。

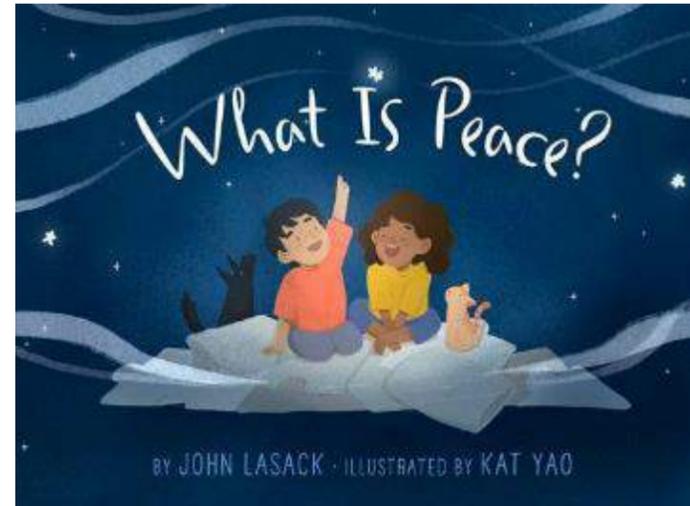
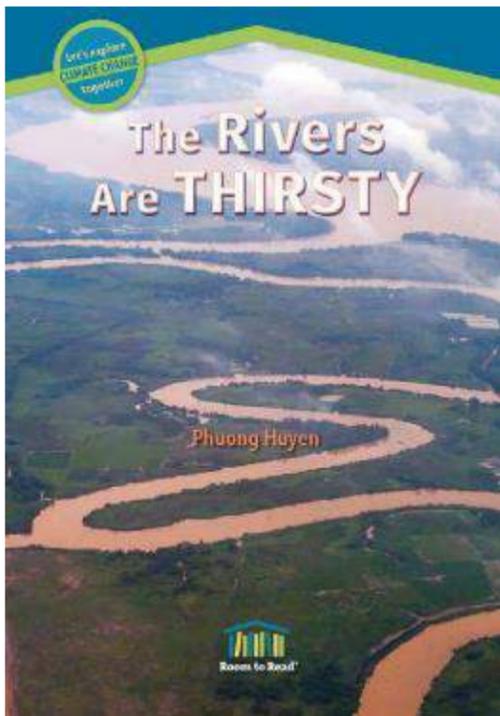
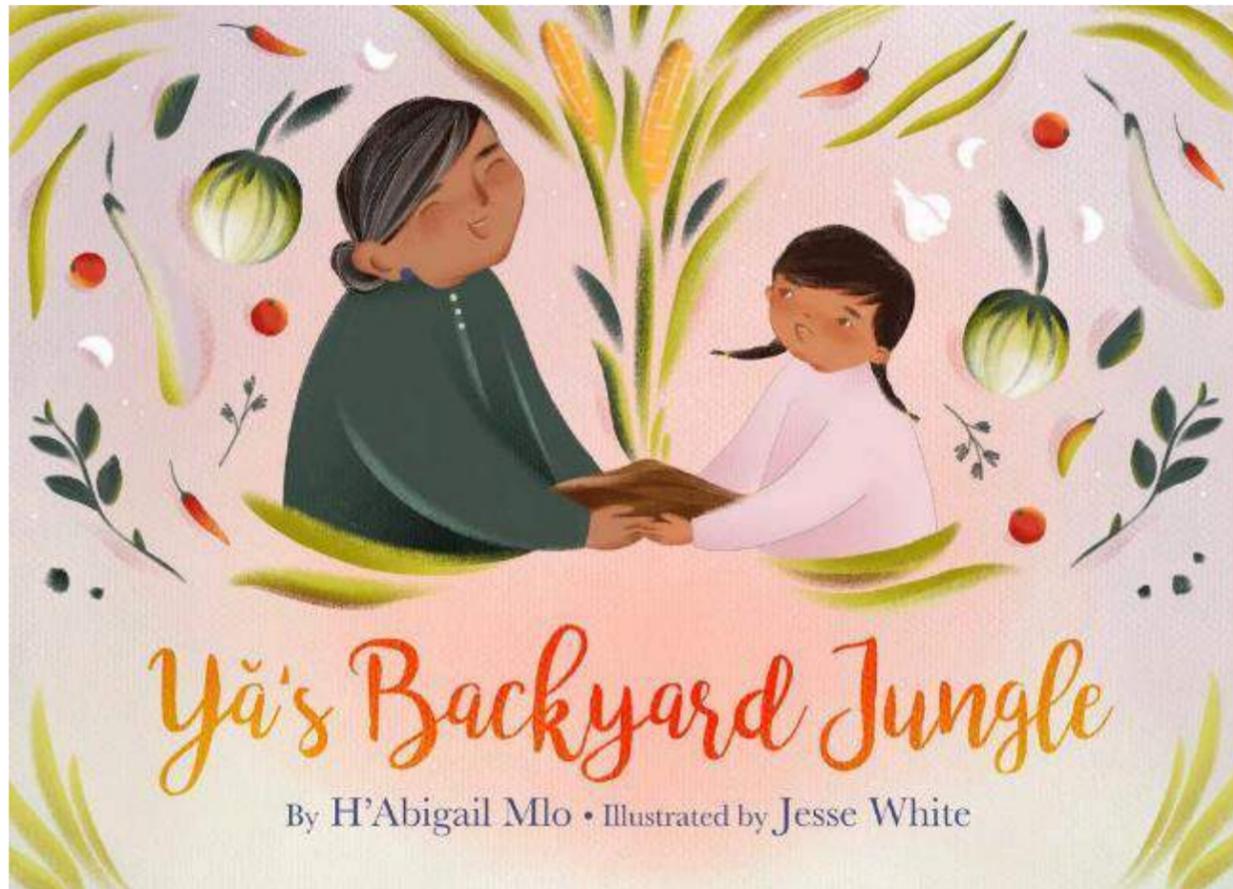
ウッタラカンド州政府は学校閉鎖によって子どもたちの教育に支障が生じていることを認識し、州内の子どもたちにデジタル学習教材を提供するために、総力を挙げて取り組みました。州政府は、その主要パートナーとして、ルーム・トゥ・リードに連絡しました。

ルーム・トゥ・リードの読み聞かせビデオを初めて見たハルミートさんは喜びでいっぱいになりました。普通のオーディオブックとは異なり、ビデオには、テキストも画像もあります。ハルミートさんはさらに、電子書籍も手にしました。自分のペースで読むことができ、クリックするだけでページをめくれます。さらに、質問まで出てくるため、集中力を維持できるという素晴らしい仕組みになっていました。ハルミートさんはすぐに読み聞かせに夢中になり、先生が毎日くれる教材を心待ちにしていました。

ハルミートさんの両親は、ハルミートさんの成長を誇りに思っています。そして、この困難な時期でも、息子が大好きな勉強が続けられることを感謝しています。

このページには、ホンジュラスでルーム・トゥ・リードが発行した絵本『Kim Discovers the River (仮訳: キムが川を見つけたよ)』の挿絵があります(イラスト: ウェンディ・マイレナ、文: マリア・ホセ・モンテシノス)。





上:平和と平等をテーマにした作品集のひとつ、『Yä's Backyard Jungle (仮訳: ヤーの裏庭ジャングル)』は、ベトナム系アメリカ人家族のお話です。左下:気候変動に関するノンフィクション作品集のひとつ『The Rivers Are Thirsty(仮訳:川は乾いている)』は、ベトナムのメコン川のデルタ地帯に関する内容です。右下:平和と平等をテーマにした作品集の『What is Peace?(仮訳:平和って何だろう?)』は、二人兄弟の平和、闘争、そして、解決への道のりを描いた物語です。

特別イニシアティブ

書籍出版

新型コロナウイルス書籍シリーズ

- この未曾有の時代に経験したことを子どもたちが理解して処理できるよう、ルーム・トゥ・リードは、COVID-19ブックシリーズを作りました。世界中の子どもたちがパンデミックを体験している最中に、ルーム・トゥ・リードは、10カ国、12言語、11時間帯の多様なブック・クリエイターらと共に、新型コロナウイルスに関するテーマで20作品を作るためのグローバル・ワークショップを展開しました。

カリフォルニア州の移民と低所得コミュニティに向けた本の出版の取り組み

- 2020年には、移民や低所得者層の教育ニーズを支援するため、サンフランシスコ・ベイエリアの団体とのパートナーシップを開始しました。ルーム・トゥ・リード出版のアラビア語の本500冊をその地域の権利擁護団体Refugee and Immigrant Transitions (RIT) に提供し、スペイン語の本30,820冊をMission Economic Development AgencyとRITに配布しました。

RITの代表者は次のように述べています。「私たちの生徒の多くが話す、アラビア語とスペイン語の本を寄付して下さったルーム・トゥ・リードに感謝しています。生徒たちの母国語で本を読み聞かせるアイデアが浮かび、アラビア語で初めて、本の読み聞かせをしたところ、子どもたちは喜んでいました。」

平和と平等のブック・シリーズ

- 私たちの [平和と平等のブック・シリーズ](#) (英語) は、米国のさまざまなライターとイラストレーターが集結して、「ブック・スプリント」という競争で、わずか4週間で、もっと平和で平等な世界を作る、というテーマの下で、10冊の本を作りました。それぞれ、4人組のクリエイター・チームで作られました。シリーズ

「学校に通うことも先生に会うこともできないため、チームは、識字教育プログラムを通じて、教育者、校長、司書、学校管理者などをトレーニングし、サポートするための創造的かつ革新的な戦略を考えました。また、教育省のために、このテーマに関する戦略的論文の作成を主導することで、読書機会損失の回復に貢献することができました。現在、私たちは、この論文から提言のいくつかを実施するリーダー的なNGOです。」

バネッサ・フランシス
南アフリカ カントリー・ディレクター

このシリーズでは、黒人発明家の貢献、米国の国勢調査の重要性、米国のパレスチナ難民の経験など、さまざまな魅力的なストーリーを取り上げています。これらの本は、[リテラシー・クラウド](#) (英語および支援地域の言語) でダウンロードできます。

気候変動シリーズ

- 私たちは、若い読者を対象とした説明的なノンフィクションのグローバルシリーズを作成しました。以下のような世界中のさまざまな気候関連の問題を取り上げました。
 - インドネシアの森林伐採
 - タンザニアのキリマンジャロ山における積雪量の減少
 - ベトナムのメコン・デルタの塩分量と淡水不足
 - ネパールの動物と生物多様性を脅かすもの

気候変動が世界のさまざまな地域に与えている影響、地球を健全に守るために子どもたちが担っている役割などを学ぶことができるように、この本を地理的背景を超えて適応させていく予定です。

フィリピンでの出版と配送

- 2019年、ルーム・トゥ・リードはフィリピンで初めて出版を開始し、20冊の素晴らしい本を作成しました。2020年には、これらの本を1万9,600部印刷して、フィリピンの子どもたちに配布したほか、インターネットが普及していない地域の子どものために、フィリピン語の20話をそれぞれ15分間のラジオ放送で読み聞かせしました。この読み聞かせは、フィリピン文化センターのYouTubeチャンネルとルーム・トゥ・リードのリテラシー・クラウドでも聞くことができます。また、現地のフィリピン語の学校関係者や教育者を対象として、効果的な本の使い方についてのウェビナーを開催しました。



障害を乗り越えて発展

女子教育とジェンダー平等

ルーム・トゥ・リードの女子教育とジェンダー平等の活動は、女子が学校にしっかりと通い、自分の人生を自分のものとして歩むために必要なライフスキルを身につけさせることを中心としています。質の高い教育とメンターシップがあれば、少女たちは充実した女性へと成長し、思いもよらない高みへと到達できると考えています。残念ながら、2020年の新型コロナウイルスが引き起こしたパンデミックにより、学校教育が崩壊し、少女たちの機会と未来が大きく損なわれました。

このページのイラストは、カンボジアのルーム・トゥ・リードが制作した『*An Adventure in the World of Flowers* (仮訳: 花の世界の冒険)』から引用しています(イラスト・文章: チョウ・チニス)。



2020年女子教育とジェンダー平等における活動

家庭内の責任や経済的な困難が女性に偏っているため、思春期の少女、コロナ禍の影響を特に受けやすくなっています。コロナ収束後も、少女が中退したまま学校に戻らないケースが多く見られると考えられます。経済的に不安定な状況に置かれた少女たちは、児童婚や性的人身売買などの被害に遭うおそれがあります。家族がかつてないレベルのストレスにさらされると、家族内の争いやジェンダーに基づく暴力のリスクも高まり、少女たちの自信や幸福感、人生の重要な決断を交渉する能力に悪影響を及ぼします。

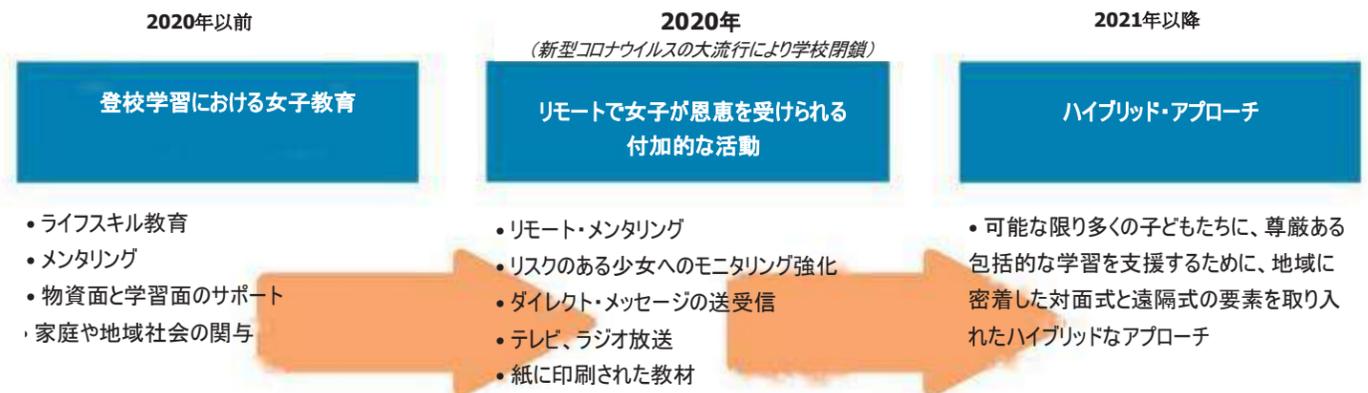
この課題に立ち向かうために、ルーム・トゥ・リードは、女子教育プログラムの介入を

行うための新しいアプローチを確立し、次のようにモデルを調整しました。

- 家で孤立している少女たちと、リモートでメンタリングを行う
- ラジオ、ワークシート、ビデオによるライフスキルのレッスンを提供する
- 自主退学リスクの高い女子生徒のモニタリングを強化する
- さまざまなコミュニケーション方法を通じて保護者へのガイダンスを増やす。こうした新しい働きかけにより、これまで以上に多くの少女たちとつながり、より切実なニーズにも対応できるようになりました。

新型コロナウイルス関連のプログラム革新

次のセクションでは、2020年の私たちの活動に焦点を当てますが、新型コロナウイルスの世界的流行とそれに伴う学校閉鎖が続いており、2021年もこれらのプログラム調整を続けていることにご留意ください。



「パンデミックでは、強い信念と楽観に基づいて物事を進める必要がありました。課題に対処するには、お互いの経験を活かした協力が必要でした。私たちのチームはエネルギーで、学習面で、さまざまな障害物に行き当たっている子どもたちの可能性を引き出すために、自分たちのスキルとクリエイティビティを発揮することができました。教育の未来を再建するために、常に前向きな姿勢を求め、お互いに学び、必要に応じて調整していきます」。

- ヴァン・サチア
カンボジア カントリー・ディレクター



リモート・メンタリング

ルーム・トゥ・リードのソーシャル・モビライザーのスタッフが提供しているメンターシップは、プログラム参加者が困難に立ち向かう際のライフラインとなっています。このような支援は、危機的な状況下では、一段と重要になるため、現在、学校が閉鎖されている間も、少女たちにグループや個人のメンタリングを提供し続けています。2020年には、WhatsAppなどのメッセージング・プラットフォームを利用したグループ・メンタリングを実施しましたが、リモートで行う1対1の個人メンタリングに力を入れました。精神面、自宅学習、安全で健康な生活、学校への復帰という4つの優先項目に重点を置きました。

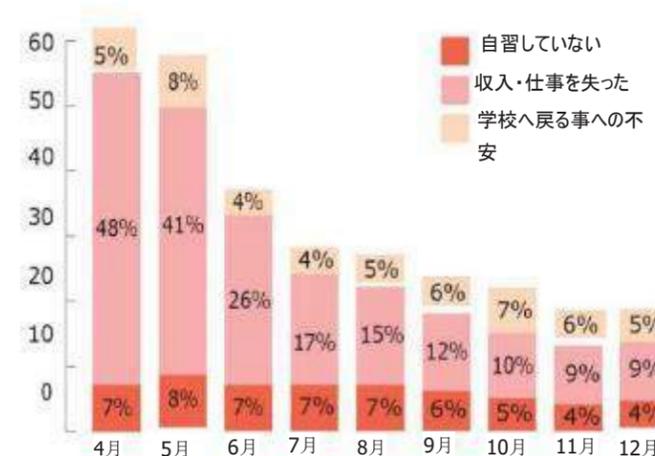
2020年:

- リモートで個人メンタリングを受けた少女の数: 34,420人
- グループ・メンタリングを受けた少女の数: 4,215人
- リモート・メンタリング・セッション合計: 265,488回
- リモートで個人メンタリングを受けた女子教育プログラム参加者割合: 84%

リスクを抱えている女子のモニタリング強化

コロナ禍がもたらした新たなリスクを考慮し、ルーム・トゥ・リードは既存のシステムを強化して、少女たちをより細かくモニタリングして、特に困難な状況を抱えていた少女たちを支援しました。リモートの個人メンタリングを行った際に、ソーシャル・モビライザーは、少女たちに対して、簡単なリスク調査を実施しました。女子生徒が学校閉鎖中にも勉強を続けているかどうか、パンデミックのために仕事や収入を失った人が家庭にいるかどうか、学校再開後に教室に戻れるかどうか心配しているかどうか、という3つのリスク要因に着目しました。2万4000人の女子生徒にアンケートを実施した結果は、次のとおりです。

リスク要因を報告した女子割合(月別)



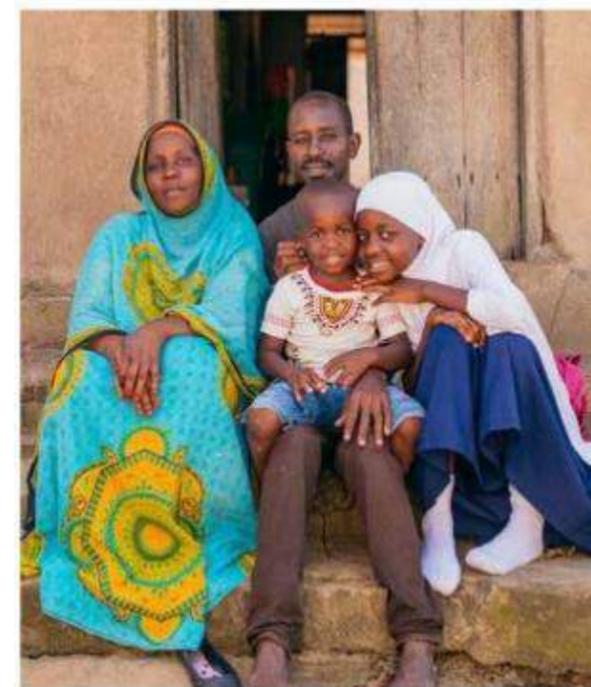
「リスクがある」と判断された少女には、ソーシャル・モビライザーが個別にメンタリングを行い、その家族と協力して強力なサポート体制を確保します。

ダイレクト・メッセージ

ソーシャル・モビライザーは、テキストや電話を使ったメッセージングで女子と連絡を取り合うことができました。複数のプラットフォームを使って、女子とその家族とのコミュニケーションを図りました。

2020年:

- 女子教育プログラムの目標支援として、200万件のメッセージを送信



「2020年は私たち全員にとって課題の多い年でしたが、そうした困難な時期にあっても、ルーム・トゥ・リードには素晴らしいことを達成し続けるチームがいます。コロナ禍において、ルーム・トゥ・リードには、常に危機感を持ち、心を配り、能力を発揮し、柔軟性と自己認識を持って行動するメンバーがいることを実感しました。学校閉鎖期間中は、できるだけ多くの子どもたちが継続的に恩恵を得られるよう、リモートでの大変な活動の数々に対応し、チーム間の強い協力関係には、心から感銘を受けました。オープンマインドで目的意識を持ったこの素晴らしいチームの一員になれたことは、私にとってありがたいことであり、充実感があります」。

ジュベナリウス・クルレテラ
タンザニア カントリー・ディレクター



ヌーさんの紹介

ベトナム | 11年生

ヌーさんがまだ1歳のとき、母親は家を出たまま帰ってきませんでした。それ以来、祖父母、叔父叔母、従兄弟と一緒に住む騒々しい家で、ヌーさんは父親に育てられました。

「母親のいない私は、女の子であることに疑問を感じる事が多く、特に父親にはあまり働いてほしくないの、将来が心配です。父親がもっとリラックスして人生を楽しめるように、良い仕事に就きたいと思っています」。

孫娘の中で最年長のヌーさんは、親戚が長時間働く中、祖父母のもとで幼い子たちの世話や家事をすることを期待されています。家では勉強せずに家事をしなければならないというプレッシャーを常に感じています。「ルーム・トゥー・リードのおかげで、プレッシャーが和らぎました。毎日進歩し続けるために、自分で計画や目標を立てるようになりました」とヌーさんは言います。

母親のいないヌーさんにとって、メンタリング・セッションは非常に貴重です。質問をして、友人やメンターが答えてくれて、自分の気持ちや意見を表現することに慣れてきました。

クラスメートと同様に、ヌーさんもCOVID-19のパンデミックが始まった頃にリモート学習に移行しました。リモート学習中、ヌーさんはクラスのオンライン・メッセージング・グループに積極的に参加しました。ヌーさんは、「社会的距離の実施中、ルーム・トゥー・リードはグループ・メンタリングなどの活動をオンラインでやってくれました」と振り返ります。ソーシャル・モビライザーは、このオンライン・グループを通じて私たちとつながり続けました。勉強や家庭の問題など心配なことは何でも打ち明けて、アドバイスを受けることができました」。

2020年の困難な状況に負けず、ヌーさんは優秀な成績で10年生を修了しました。夏休み中は働き、その収入を2020-2021年の学用品に使いました。ヌーさんはまだ卒業後に何をするかは考え中ですが、どの道に進むにしても、習得してきたライフスキルから、決めるのは自分であることを自覚しています。

イラスト: ルーム・トゥー・リード作品のカンボジア語の『An Adventure in the World of Flowers (仮訳: 花の世界の冒険)』(イラスト・文章: チョウ・チニス)。

テレビとラジオの放送

女子教育プログラムは、さまざまな国でテレビやラジオを通して、拡散されています。2020年、ルーム・トゥー・リード・バングラデシュは、中等高等教育局(DSHE)と提携して、26本のライフスキル教育ビデオを作成し、国営テレビチャンネルサングサッドTVで放送しました。このビデオは、バングラデシュ政府が6年生から10年生までの生徒を対象とし、国家カリキュラムを提供する際に使用した「Amar Ghore Amar School(私の家、私の学校)」プログラムの一環として放映されました。

インドとネパールのチームは、テレビやインターネットにアクセスできない少女たちにラジオ番組を提供しました。ネパールでは、女子教育プログラムの卒業生が、教育が人生に果たした役割を語る様子が放送されました。また、感情やストレスの管理、栄養、健康的な人間関係と仲間からの圧力、結婚の先延ばし、問題解決、目標設定、家庭学習などの主要テーマについて、ライフスキルのレッスンを提供しました。

2020年:

- バングラデシュでは、「女子教育プログラム」のテレビ番組を26本制作し、放送しました。
- インドでは、32本のユニークなラジオエピソードを制作し、放送しました。
- ネパールでは、101本のユニークなラジオエピソードを作成し、放送しました。

紙に印刷された教材

インターネットにアクセスできない子どもたちがより利用しやすいリソースを提供するために、学校閉鎖中は、女子の学習を支援するために、さまざまな教材を紙に印刷して、適応させました。アクティビティ・ワークシート、教育用ニュースレター、ハンドアウト、ジャーナルなどの物理的な教材を女子に提供しました。

2020年:

- スリランカ、バングラデシュ、タンザニアの10,000人以上の女子に印刷された教材を配布しました

ライフスキルのカリキュラムをラジオに適応させる

今後も女子中学生への支援を続けていくために、ラジオを中心としたリモート学習方法を拡大していきます。主要ファクターやベストプラクティスのランドスケープ分析を行い、遠隔地の低所得環境にラジオ番組を配信するためのアプローチや、女子中学生向けのラジオ番組を開発するための推奨事項を明らかにしました。また、ラジオ番組を通じて教育的なエンターテインメントを開発することを専門とするNGOであるポピュレーション・メディア・センターと提携し、ライフスキル教育のカリキュラムにラジオを活用することにしました。

女子教育プログラム参加者の学校復帰率(2020年末時点)

2020年末に、学校が再開されたカンボジア、ラオス、スリランカ、タンザニア、ベトナムにおける、参加者の学校への復帰率を評価しました。具体的には、2020年2月28日時点での総参加者数に対して、12月31日時点で学校に在籍中または学校を卒業した女子生徒の数を評価することで復学率を算出しました。



ルーム・トゥ・リードの グローバル・コミュニティ： 困難に立ち向う

新型コロナウイルスのパンデミック下で、ルーム・トゥ・リードの寄付者、支援者、親善大使、スタッフで構成されたグローバル・コミュニティは、私たちが支援する子どもたちの計り知れないニーズと脆弱性を認識し、この課題に立ち向かいました。バーチャルイベント、特別プロジェクト、メディアへの掲載、ソート・リーダーシップなどを通じて、教育に遅れをとるリスクのある学生を支援するために団結しました。この教育危機を乗り越えるために、ご協力いただいた皆さまに、この場を借りて感謝いたします。ルーム・トゥ・リードの成功と、ルーム・トゥ・リードが支援しているコミュニティが困難から回復するには、グローバル・ネットワークが欠かせません。新型コロナウイルスのパンデミックは、ルーム・トゥ・リードの活動地域において、現在も進行中の問題ですが、力を合わせて立ち向かうことで、教育危機を確実に緩和できると確信しています。

イラスト：ルーム・トゥ・リード発行のベトナム語の児童書『The Squirrel's Journey (仮訳：リスのぼうけん)』(ドゥ・タイ・タン著・挿絵)。



今年は何年にもなく、コミュニティが一丸となって学生の未来を守るために尽力した年でした。学習危機に直面する中で、パートナーの皆さまからは、確固たるサポートをいただき、心より感謝しております。一丸となって困難に立ち向かうことで、世界的なパンデミックがもたらした不安を乗り越えられると確信しています。

パートナーおよびアンバサダーの皆さまへ

パーソナライズの児童書『Be Brave (仮訳: 勇気をもって)』

2020年には、パーソナライズの児童書の制作会社リプリオ社と提携し、『Be Brave (仮訳: 勇気をもって)』を発行しました。『Be Brave』は、世界各地で学校に通う子どもたちの物語で、世界各国の6人のアーティストによる美しい手描きのイラストで彩られています。

ブック・クリエイターの後援者

ルーム・トゥ・リードの「オーサー・アンド・イラストレーター・アドボケート」は、多様な体験を物語について伝えたいという共通の情熱を持つブック・クリエイターのグローバル・ネットワークを形成しています。現在、小説家のアルカ・ジョシさん、クリスティーナ・ペーカー・クラインさん、エスター・ウオジョシキさん、ニエン・ファン・クエ・マイ博士の4名が後援者として活動しています。それぞれのネットワークやプラットフォームを通じて、ルーム・トゥ・リードの認知度向上や資金調達に協力しています。私たちは、より包括的で公正な世界を築くために、ベストセラー作家や世界的に有名なチェンジメーカーの協力を得られることを光栄に思います。

読み聞かせ

ピース・スタジオの100 Offerings of Peace Campaign (仮訳: 平和に捧げる100のお供えものキャンペーン)と題して、『Vy's Special Gift (仮訳: ビーの特別な贈り物)』の読み聞かせ版を制作しました。これには、ピース・スタジオ共同創設者であり、平和教育者、児童文学作家、オバマ財団のアドバイザーとして活躍しているマヤ・ソエトロングさんの協力がありました。

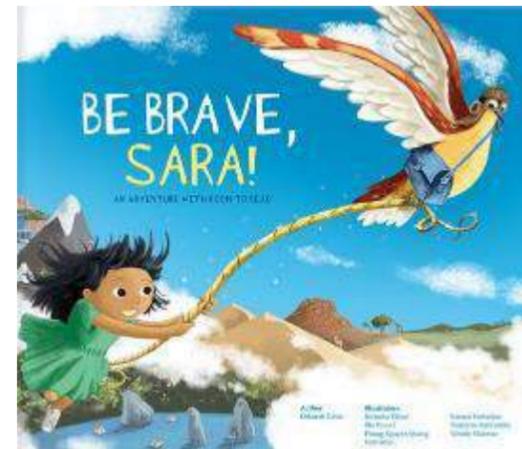
また、ティム・シュライバーさんとオブラ・ウィンフリーさんが司会を務めた、パンデミック中の人類の行動を称える24時間の世界放送イベント「力を合わせて」でも紹介されました。このイベントでは、ジュリア・ロバーツさんがベトナムのルーム・トゥ・リード制作の『Rescue the Princess (仮訳: お姫さまを助けて)』を朗読し、YouTubeクリエイターのブラジャクタ・コリさんがインドのルーム・トゥ・リード制作の『The Village of Five Poles (仮訳: 五本柱の村)』を朗読しました。

バーチャル・ガラ

ルーム・トゥ・リードの2020年バーチャル・ガラ・シリーズ「イマジン」は、誰もが教育を受けられる世界を実現することを目指している支援者が一体となり、オーストラリア、ヨーロッパ、香港、インド、日本、中東、北米、シンガポール、英国からの参加がありました。ライブのストリーミングでは、新型コロナウイルスのパンデミックが収束していないにもかかわらず、教育や夢を追求し続けている芸能人や作家、インフルエンサー、ビジネスリーダー、そしてルーム・トゥ・リードの生徒たちが、インスピレーションに満ちたメッセージやパフォーマンスを披露しました。このイベントシリーズの日本版は、[ウェブサイト](#)で(日本語)ご覧いただけます。

「クリエイターズ・フォー・チャレンジ」ウェブ・シリーズ

ルーム・トゥ・リードは、ミシェル・オバマさん、リザ・コシさん、オバマ財団のガールズ・オポチュニティ・アライアンス、そして「クリエイターズ・フォー・チャレンジ」チームと協力して、女子教育の力と重要性を世界に発信しています。エミー賞を受賞したウェブ・シリーズのエピソード『Why 98 Million Adolescent Girls Aren't In School (仮訳: 9800万の少女が就学しない理由)』では、ベトナムのルーム・トゥ・リード女子教育プログラムの参加者と卒業生が紹介されました。このエピソードでは、ミシェル・オバマさんを筆頭に、ガールズ・オポチュニティ・アライアンスのエグゼクティブ・ディレクターであるティファニー・ドレイクさん、YouTubeクリエイターのリザ・コシさん、ブラジャクタ・コリさん、テンバ・マフバさんといった面々が、女子教育の重要性について議論しています。このパートナーシップは、一連のウェビナーとして2021年にも引き継がれ、女子教育支援とジェンダー平等の促進に関する革新的な実践について共有しています。



上: イマジンバーチャル・ガラ・シリーズ。右下: リプリオ社との提携により、パーソナライズされた子ども向けの本『Be Brave (仮訳: 勇気をもって)』を作成。左下: 『Rescue the Princess (仮訳: お姫さまを助けて)』朗読: 女優ジュリア・ロバーツ(日本語字幕あり。字幕を日本語設定にしてください)。中央左: ルーム・トゥ・リードの作家たち



サポーター紹介

レガシー・ソサエティ(遺贈寄付)

遺言を作成する際、ルーム・トゥ・リードを受取人として指定することで、何世代にもわたって子どもたちを支援する永続的な約束を選択することになります。遺族とルーム・トゥ・リードのミッションの両方を称える贈物にすることができます。

レガシーを残す代表的な方法としては、以下のようなものがあります。

- 遺贈: 遺言や信託を通じて、ルーム・トゥ・リードに遺贈できます
- 生命保険: 保険契約金の一定割合または一定額の第一受取人としてルーム・トゥ・リードを指定できます。
- 退職金: 米国在住の方は、IRA、401(k)、その他の退職金・年金プランの受取人としてルーム・トゥ・リードを指定できます。

遺言を作成する際には、*税務、法律、専門家のアドバイザーにご相談ください。*

カナダのルーム・トゥ・リードのサポーターであるピーターさんは、シャロン夫人と一緒にルーム・トゥ・リードを財産の受取人として指定した動機を話してくださいました。

「ルーム・トゥ・リードにレガシーギフトを託すことは、人生の終わりを派手に飾るものではなく、パレードがあるわけでも、子どもたちが花束をくれるわけでも、新聞の社会欄に記事が載るわけでもありません。むしろ、機会、希望、回復力の種を遠くまで広めるチャンスであり、数量化することはできませんが、世代を超えて前向きな波を生み出すことができるでしょう。」

ルーム・トゥ・リード史上最高額の投資

マッケンジー・スコットさんとダン・ジェウエットさんから、ルーム・トゥ・リード宛てに根本的な変化をもたらす投資があり、心から感謝しています。ルーム・トゥ・リードCEOのギータ・ムラーリ博士は今回の寄付について次のように述べています。「多くの国で教育システムに多大な負担がかかっている中で、中途退学や学習損失を防ぐための資金を投入することが極めて重要な時期に、このような変革をもたらす資金が提供されました。ルーム・トゥ・リードの歴史の中でも最高額となる今回の支援のおかげで、緊急の教育問題に対応することだけでなく、より多くの子どもたちの学習成果に貢献するために、さまざまな状況に応じた拡張性のあるアプローチに投資することもできます。この投資には、心から感謝しています。今後何年にもわたって、私たちの能力を形作り、インパクトを飛躍的に高めることになるでしょう」と述べています。

ソート・リーダーシップ

ブレイクスルー・ビルダーズ・ポッドキャスト

エピソード「[世界を教育する](#)」(英語)、CEOのギータ・ムラーリ博士

ブルッキングス研究所ブログ

「[コロナ禍での女子教育の再考: プログラムと施策の採用から得た教訓](#)」(英語)。リサーチ・モニタリング・評価担当シニア・ディレクターのクリスティン・H・ベックスさんと女子教育プログラム担当シニア・ディレクターのルシーナ・ディ・メコ

パンデミック下で教育の変革を導く: 希望と可能性の現れ。フェルナンド・M・ライマーズ選集

「[風変わり記念日: ルーム・トゥ・リードの抜本的な見直し](#)」(英語)、CEO、ギータ・ムラーリ博士

Ms. Magazine

「[女性初。でも最後にあらず: 新世代の女性政治リーダーを育成するための4つの方法](#)」(英語) 女子教育プログラム・シニアディレクター、ルシーナ・ディ・メコ

アルジャジーラ英語版

[インタビュー](#) (英語)、最高プログラム責任者ヘザー・シンブロン

BBCワールドニュース

[インタビュー](#) (英語)、CEOのギータ・ムラーリ博士

ユーロニュース

[インタビュー](#) (英語)、最高開発&コミュニケーション責任者ローリー・マクマホン

テック・フォー・インパクト

「[テクノロジーは教育の平等性を促す: 君にできること](#)」(英語)、CCOのニコル・セイア

リサーチ・モニタリング & 評価

ルーム・トゥ・リードのリサーチ・モニタリング & 評価 (RM&E) チームは、教育分野のリーダーとして、画期的な研究プロジェクトを実施し、国際開発分野の関係者らとその知識を共有しています。

ライフスキル評価テクニカル・ワークショップ

ルーム・トゥ・リードは2016年に、ライフ・スキル評価の開発と試験的運用を開始しました。これは、女子教育プログラムを通じて築こうとしている自信、コミュニケーション、共感などの主なライフスキルを客観的かつ確実に評価するアプローチです。確かなライフスキル評価を求める声が世界的に高まっていることを考えると、これは、やりがいのある課題です。2020年1月、ルーム・トゥ・リードとブルッキングス研究所のユニバーサル教育センターは、ライフスキルの評価に取り組んでいる団体を招集し、2日間のテクニカル・ワークショップを開催し、これまでの進捗状況、共通の課題、有望な新しいアプローチについて議論しました。

ワーキング・グループへの参加

リサーチ・モニタリング・評価チームのメンバーが参加したワーキング・グループは、基礎教育体制 RM&Eワーキング・グループ、ソフトスキル評価のワーキング・グループ、実践コミュニティのスケールアップ RM&Eワーキング・グループの3つのワーキング・グループです。最近、私たちはビル&メリンダゲイツ財団の教育科学諮問委員会に招待されました。この委員会は、低所得国の基礎的な学習成果を改善するためのエビデンスを構築・統合するイニシアティブを監督することになります。

主要なフォーラムでのプレゼンテーション

次のことを予定しています。

- RTI国際的なシオナルとのコラボレーションによる「学習成果の平等」に関するウェビナー
- COVID-19関連の研究、モニタリング、および評価の戦略と活動について、世界各地のUSAIDミッションでのプレゼンテーション
- 緊急教育支援の情報ネットワーク(INEE)主催のCOVID-19危機関連のバーチャルワークショップ
- SurveyCTO主催のウェビナーにて、読解力の評価に関する取り組みについてのプレゼンテーション



トップ企業・団体スポンサー

2020年のトップ企業・団体スポンサー

世界中の低所得地域に暮らす子どもたちの生活向上に努めるには、企業・団体スポンサーによる支援が不可欠です。企業・団体スポンサーからの助成金、マッチング寄付、コース・マーケティング、現物贈与などによる支援は、共通の目標を達成しながら、効果を広める活動に役立てられています。

「アナンタ財団」の協力により、ルーム・トゥ・リードのミッションに不可欠なプロジェクトの開発・強化が実現しています。アナンタ財団は、合計565万ドルの支援を通じて、戦略的目標に向かって前進し、人生を変えるようなプログラムをこれまで以上に多くの子どもたちに提供できるよう、ルーム・トゥ・リードを支援しています。

「アトランティック財団インターナショナル」は、ルーム・トゥ・リードのジェンダー平等活動への1250万ドル以上の寄付を通じて、これまでのパートナーシップで約3万年分の子供教育を支援してきました。アトランティック財団は2020年に、オーストラリア最大の企業スポンサーとなりました。また、アトランティック財団の職場では、職員による寄付プログラム「1日1ドル」を通じて、ルーム・トゥ・リードへの個人レベルのサポートも盛んに行われています。

citi シティ・グループは、「e for education」というイニシアティブを通じて、教育に重点を置く数多くの非営利団体への寄付を行っています。シティ・グループとルーム・トゥ・リードは、2013年のキャンペーンの開始以来のパートナーです。2020年、この「e for education」イニシアティブから過去最高額となる112万5,000米ドルの支援が行われ、これはルーム・トゥ・リードが最も支援を必要としている領域において役立てられています。

CREDIT SUISSE 「クレディ・スイスAG社」は、2005年以来、確固たる企業パートナーとして、これまでに14万人以上の子どもたちを支援し、ルーム・トゥ・リードの技術支援活動の立ち上げをはじめとする数多くの戦略的プロジェクトに貢献しています。クレディ・スイスは、ルーム・トゥ・リードの「女子教育プログラム(金融リテラシー)」の主要パートナーとして、

タンザニアやスリランカでの女子教育プログラムとライフ・スキル・クラブを実現しています。クレディ・スイスは2020年に、COVID-19関連イニシアティブを支援する企業マッチングプログラムを開始しました。さらに、クレディ・スイスは、2020年のバーチャル・グローバル・ガラのスポンサーとなり、アジアのルーム・トゥ・リード職員にオフィススペースを無償提供したほか、グローバル市民プログラムを通じて能力開発を支援しています。

「ドバイ・ケア」は、モハメド・ビン・ラシッド・アル・マクトゥーム・グローバル・イニシアチブの一部です。ルーム・トゥ・リードの「ゴールキーパーの質の高い教育のアクセラレーター(仮訳)」の重要なパートナーであり、ベトナム国内の学生や学校への識字教育プログラムの拡大を支援しています。ドバイ・ケアはまた、「世界の子どもたちに読書の機会を」キャンペーンの一環として、ヨルダンにて60万冊を超えるアラビア語の児童図書、さらにカンボジア、インド、ネパール、スリランカ、タンザニア、ベトナムなどで200万冊を超える現地語の児童書の開発と配布も支援しました。さらに、ドバイ・ケアは、ネパールにおいても、2015年の地震後の学校復興と識字教育プログラムを支援しています。

echidna giving「エキドナ・ギビング」は、2020年に、識字教育プログラムと女子教育プログラムを支援しました。エキドナ・ギビングは、イノベーション、分析、学習、体系的変化の領域において、ルーム・トゥ・リードがお手本としているパートナーです。

Google.org Google.orgは、ルーム・トゥ・リードとともに、複数年にわたり、20万人以上のインドネシア人学生

を対象とする低学年生の読書体験を改善する支援を行っています。具体的には、新しいデジタルプラットフォームを通じてバハサ・インドネシア語の児童書にアクセスできるようにしたり、効果的な読書活動について教育者へのトレーニングを行ったりしています。また、Google.orgの年末社員寄付なども、世界中の子どもたちが必要としている教育機会の実現を支えています。

Goldman Sachs 「ゴールドマン・サックス」とそのシニア・エクゼクティブから、ゴールドマン・サックス・ギブズプログラムを通じて、2510万ドルを超える支援を受けました。ゴールドマン・サックスは2020年に識字教育プログラムと女子教育プログラムを支援し、16700人の子どもたちがその恩恵を受けました。

IKEA Foundation 「イケア財団」は、2016年以来、バングラデシュとインドネシアで行われている識字率向上活動を支援しています。イケア財団は、ルーム・トゥ・リードがインドで初めて実施した女子教育に重点を置いた技術支援プロジェクトにも協力し、何千人もの少女たちの教育の機会と人生の重要な決断に必要なツールを提供しています。

imc 「IMC」は、2016年以降、タンザニアにおける識字率向上プログラムを惜みなく支援しています。ルーム・トゥ・リードへのこれまでの支援は980万ドルを上回り、若者たちが識字力という強力なツールを備え、人生を変え、地域社会や将来の世代にも、その効果が伝わっていくよう支援しています。



TATCHA 「タッチャ」は、高級スキンケアブランドであり、2014年から企業パートナーとして、同社製品が1点購入されることにその一部をルーム・トゥ・リードに寄付し、アジアやアフリカの識字率向上や女子教育活動を支援しています。これまでのパートナーシップを通じて、アフリカや東南アジアの少女たちの500万日以上の学校生活を支援してきました。2020年、タッチャはルーム・トゥ・リードの米国プログラム・フィージビリティ調査を支援しました。この調査の目的は、十分な教育を受けていないコミュニティのうち、教育の機会平等への投資が最も効果を発揮する地理的位置を特定することでした。この調査では、米国における児童書へのアクセスの不公平さや絵本の多様性の欠如を評価しました。この調査結果は、ルーム・トゥ・リードの関わり方や米国の子どもたちへの将来的なインパクトを確立していく上で重要なものとなります。

WARBURG PINCUS 「ウォーバーグ・ピナス」は、2020年に始まったルーム・トゥ・リードとのパートナーシップを通じて、インドでの女子教育プログラムの拡大とグローバルな気候変動対策カリキュラムの枠組み開発に取り組んでいます。この支援により、ルーム・トゥ・リードは、重要な時期にあるインドの少女たちに、あらゆるレベルのテクノロジーへのアクセスを考慮したミックス・モダリティ・アプローチを提供することができました。

unicef 「ユニセフ」は、プログラム対象のアジア諸国においてルーム・トゥ・リードと連携しています。ユニセフ・バングラデシュとパートナーシップを通じて、教育者のための専門的能力の開発、学校の運営管理、コミュニティ参加を通じて、コックス・バザールのホスト・コミュニティの学生たちの学習成果向上を目指しています。また、教育者への補助教材の提供や、ロヒンギャ難民キャンプの子どもたちへの良質な児童書の提供などでも連携しています。さらに、ユニセフ・インドとのパートナーシップを通じて、複数の州における識字率向上プログラムと女子教育プログラムの拡大と制度化を支援しています。スリランカでは、ユニセフと協力して、子どもたちの読書習慣の向上を促せるよう、キリノッチの学習環境を改善し、良質な教材を提供し、教育者へのトレーニングを行っています。

USAID 「米国国際開発庁 (USAID)」は、2020年に、ルーム・トゥ・リードとともに、同庁が出資しているカンボジア、インド、ラオス、ルワンダでの識字率向上プロジェクトに取り組み、数百万人の子どもたちを支援しました。各国への支援により、ルーム・トゥ・リードの活動を刷新でき、新たな地域での活動を拡大することができました。

WFP 「世界食糧計画(WFP)」とルーム・トゥ・リードは、米国農務省の「教育と児童の栄養のためのマクガバン・ドール国際食糧プログラム」からの支援とともに、2018年から2020年にかけて、コックス・バザールで技術支援プロジェクトを実施しました。このプロジェクトでは、135校の公立小学校と11校のマドラサに通う45,183人の子どもたちを支援し、30冊の新刊書籍を開発・出版し、855軒の図書館に593,289冊の書籍を配布しました。また、教育者には、識字教育や図書館運営に関する研修を行い、教頭や地方自治体職員には学校運営、リーダーシップ開発、監視・監督に関する研修を行いました。

ルーム・トゥ・リードは、世界中の企業・団体サポーターに支えられています。ここに感謝の意を込めて、支援額5万米ドル以上の主要企業・団体スポンサーをご紹介します。

500,000ドル以上

アトランティック
 団インターナショナル
 シティ・クレディ・
 スイス・グループ
 ドバイ・ケアーズ
 エキドナ・ギビング
 ゴールドマン・サ
 ックス
 グーグル財団
 イケア財団
 IMC
 セーブ・ザ・チルドレン
 タッチャ
 アノニモス財団
 UBSオプティマス財団
 ユニセフ
 アメリカ合衆国国際開発庁
 (USAID)
 ウォーバーク・キンカス
 国連WFP協会

250,000-499, 999米ドル

アナンタ財団
 バジャージ・オート
 バンク・オブ・アメリカ
 ベルティン・ファミリー財団
 BNPパリバ
 カルティエ・フィランソロピー
 コミック・リリーフUS | レッド・ノ
 ーズ・デイ
50, 000-249, 999米ドル
 アビーム・コンサルティング
 オール・ザ・スカイ財団
 アングロ・アメリカン財団アノニ
 マス
 ブラックロック
 ブルームバーグ
 ブーレ財団
 クラリアント財団
 CMS
 ドッチ・アンド・コックス
 Dr.アウスビュッテル & Co.
 GmbH
 エイロ財団
 グリーン・リープス教育財団

HTパレック財団
 ホグランド財団
 HSチャオ財団
 HSBCスリランカ
 ハンブル・バンドル
 リブリオAG
 メットライフ財団
 モルガン・スタンレー・インド
 オラクル
 RGマヌードレーン財団
 ライジング・タイド財団
 セレクト・エクイティ・グループ財団
 スクール財団
 ボーイング・カンパニー
 エンパワーメント財団
 エステローダー・カンパニーズ・チャリタブル
 財団
 アメリカ議会図書館
 シドモア家財団
 タウンゼンド財団
 トラベル・セントリー
 ゼネックス財団



2020年のトップ個人サポーター

250,000ドル以上

アンドレア&イクバル・カーン
 デイナ・クレイノ・アリザ&ユースフ・アリザ
 プニツク財団
 カミラ&ジョン・リンドフォース
 キャロル・オブレムスキー・チャリタブル基金
 キム・スタッフフォード&ライアン・コリンケ
 ヒラリー・バレンタイン
 エリカ・ワックス&アンドリュー・ポールズ
 ベネロベ・ワイアット

\$100,000 - 249,999

メアリー・パイロン
 リチャード&サビー・チャルマーズ
 チン家基金
 アサミ&ベンジャミン・ファーガソン
 アンナ&マット・フリードマン
 ベルマ&ジュリアス・ゴードン
 アヤコ&エリック・ゴールドデン
 ローラ・ハワード&ディーター・トゥロウスキー
 ハンター家財団
 キム・ジャクソン&スコット・ファークハーJAAM
 財団
 マリア&エリオ・レオーニ・スケティ
 タミコ・リビット&カール・ハッテンロツハー
 アンジェリーナ・オグマ
 メアリー・ルー&マーク・サイドナー
 スーザン&セオ
 セルツァー・リア&ヘルマン・シトハン
 スティーンズ家財団
 ヴァン・ヴェーネンダール家基金
 アン・ウオジェーキ財団
 トローパー・ウオジスキ財団
 キャサリン&デビッド・ゼマンズ

\$50,000-99,999ドル

アオール基金
 ジョン&パトリシア・アダムス
 エイミー・アハディザド&ライアン・トール
 マラク・アリザ&アハメド・エル・マグラビー
 ジム・アレン
 シャイマ&マハディ・アムジャド
 シンシア&クリストファー・バイク
 バウアー家
 デビッド&アリソン・ブリツァー
 セジュール&フィリップ・ボデロー
 クレイグ&スージー・ブルヤ
 ティム・カフリッシュ
 クレア・チェンバレン
 HSチャオ財団
 ガラブ・ダルミア
 ラケル&クレイグ・ドーソン
 イザベル&アントワーヌ・デシトル
 ジェーン&ジェリー・デル・ミッシェル
 イザベル・エーレ&ジョン・コルバニ
 リチャード&アテナ・アイテル
 アミン・エル・マグラビ
 ファラ・フストーク
 ローラ・M・アンド・ピーター・T・グラウアー財
 団
 グルーバー家財団
 ディーナジョー・ハイデ・ディースリン財団
 キット・ホー財団
 ローレン&ジェームズ・ホートン
 インマート財団
 ミシェル&サニー・カルシ
 ジェラルド・L・レナード財団
 ライラック基金
 ディクシャ&ディバシュ・マカン
 正直 知哉、ゆり

エンジェル・メタ
 クリス&ジョー・ポポロ
 ドミニク・プライス
 カレン・レイ
 レゾナンス・フィランソロピー
 ブライアン・ロリンズ
 サッター財団
 スーザン&セオドア・セルツァー
 デビッド・M・ソロモン
 スポーラー財団
 スプルリーノ財団
 テイロエ&シンディ・スタンスベリー
 プレット&カレン
 テイラー & アンド・マイケル
 テイラー・カリ&ジャスティン・テオ
 フレデリック・トウフィ
 ターニング・リーフ財団
 タマラ&ゾルタン・ヴァルガ
 ジェーン・ワッツ&ニール・スミス
 クリスタル・ウィルソン

物資・サービス寄贈

Salesforce.org、スカラスティック社、
 ワークデイ社、カプコ社をはじめとする
 企業サポーターからは、2020年の成
 果に欠かせない現物支給サポートの
 提供がありました。心より感謝申し上
 げます。



理事会および職員

2021年8月現在

理事会のメンバーは、リーダーシップの中核を担い、COVID-19パンデミックによる教育危機に迅速に対応しました。ここに感謝の意を込めてご紹介します。

理事会役員

メアリー・パイロン(理事)、クラウド・ナイン・キルト社 オーナー、ゴールドマン・サックス社 元パートナー

ユスフ・アリレザ、ARPグローバル・キャピタル CEO兼共同CIO

アンドリュー・ポールズ、PIMCOグローバル債券部門 最高投資責任者

マイク・キャノンブルックス、アトランティック 共同創設者兼共同CEO

サビーネ・チャルマーズ、BTグループ ゼネラルカウンシル

Dr.ルイス・クラウチ博士、RTI シニアエコノミスト

カール・ハッテンロツヒャー、ミリアド・アセット・マネジメント マネージング・パートナー兼最高投資責任者

スコット・カブニック、HPSインベストメント・パートナーズLLC 最高投資責任者

Dr.エリザベス・M・キング博士、ブルッキングス研究所 ノンレジデント・シニア・フェロー

ジョン・リンドフォース、DSTインベストメント・マネジメント マネージング・パートナー

ギーター・ムラーリ博士、ルーム・トゥ・リード 最高投資責任者

スタシア・オブレムスキー、リア・ベンチャーズ マネージング・ディレクター

ジョン・リディング、フィナンシャル・タイムズグループ 最高投資責任者

ピッキー・ツァイ、タッチャ 創設者

フランク・バン・ビーネンダール、セールスフォース 前バイス・プレジデント

スーザン・ウォシツキー、ユーチューブ CEO

ジョン・ウッド、ルーム・トゥ・リード 創設者、コンセントリック・エクイティ・パートナーズ アジアパートナー

名誉理事

ヒラリー・バレンタイン(理事長)

クリストファー・S・ピアー、アイロン・マーク・ロー・グループ PLLC 創設員

クレイグ・ブルヤ、マイクロソフト 前CFO

エリン・ガンジュ、ルーム・トゥ・リード 共同設立者兼前CEO、エキドナ・ギビング 常務取締役

ピーター・T・グラウアー、ブルームバーグ LP 会長

ティム・クーグル、ヤフー社 前CEO兼会長

アラスデア・マクタッガー、セコンド・ストリート・ファンド 社長、カリフォルニア・フォー・コンシューマー・プライバシー 創設者兼会長

ジェリー・デル・ミシア、コッパ・ストリート・キャピタル LLP 創設者兼社長

キム・アンスタット・モートン、ガール・ライジング 理事長

フェルナンド・レイマー博士、フォード財団 国際教育機関 教授、ハーバード教育大学院 世界教育革新イニシアティブ及び国際教育指針計画 取締役

ムニー・A・サッター、サッター・インベストメント・マネジメント 会長

リージョナルボード

アジア太平洋

マーク・ベディンガム
オリヴィエ & マダリーナ・ルグラン
ファルグン・ラジュ、ニコラス・ナッシュ
リア & ヘルマン・シトハン
リン & マイケル・テイラー
カリ & ジャスティン・テオ

アグネス & トニー・ザメクチョウスキ
キャサリン & デビッド・ゼマンズ

アジア太平洋

ローレン & ジェームズ・ホートン
ローラ・ハワード & ディーター・トウロウス
キー
カミラ & ジョン・リンドフォース
エイミー・パウエル

オーストラリア

リタ・アザー、パッサム・アフラク
アナ・バイリー・カラス、ジェイソン・カラス
アニー & マイク・キャノンブルックス
ジェーン & アンドリュー・クリフォード
ザフラ & ブレット・ゴドフリー
アリソン & チャールズ・ゴーマン
ドナ・ユイツ、デービッド・トリプル

カリフォルニア州

スーザン・プレイヤー
エリン & ジェンドラ・ガンジュ
クリスタ & マシュー・ゴルツバック
ディクシャ & デイビシ・マカン
エンジェル・メタ
キム・アンスタット・モートン
ステーシア・オブレムスキー
ジェシー・ピュアウォール
ミシイリ・サンカラ、シエカー・アヤー
ピエール・タウンス
ヒラリー・バレンタイン
レスリー & フランク・ビーネンダール
ブリア・ベンカテッシュ
スーザン・ウォジツキ、デニス・トルーパー

インド

ガラーブ・ダルミア
ミッキー・ドシ
ビシャル・マハデヴィア
コゼム・マーチャント
スマティ & ラビ・C・ラヒジャ
ジテュ・ビルワニ

日本

アサミ & ベン・ファーガソン
アヤコ & エリック・ゴールデン
正直 知哉、ゆり
スーザン & テオセルツァー
フレッド・トウフィグ

中東

マラク・アリレザ、アーメド・エル・マグラビー
シマ & マハディ・アムジャド
ファラ・フストーク
ディナ・クレイノ・アリレザ & ユースフ・アリレザ
ナディア・ロガブ & マリック
バジ・サルマ・ラシッド & アミン・マグラビ

ニューヨーク州

サマンサ・バリ
マリー・パイロン
リチャード & サビン・チャルマーズ
サラ & アイゼン & マシュー・レビン
キャリン・フレブガー
ピーター・T・グラウアー
ソニー・カルシ
ジャイディーブ・カーナ
ダスティ・フィリップ
マーク・サイドナー
スイス
ジュールゲン・パウアー
イクバル・カン
ケイトリン・コフ、デービッド・エプスタイン
ローラ & ロバート・シュモール
マリア・ビジル、マルコ・バグリアラ
ミンディ & アダム・シルバースタイン
ティナ・ウスターマン

英国

リチャード & サビーン・チャルマーズ
ラケル & クレイグ・ドーソン
マリサ・ドリュ
マリア & エリオ・レオーニ・スケティ
ジェリー・デル・ミシア
ビョーン・ニルソン
ジョン・リディング
エリカ・ワックス & アンドリュー・ポールズ

リーダーシップチーム

エグゼクティブ・リーダーシップ・チーム
ギーター・ムラーリ博士、最高経営責任者

シャリ・フリードマン、最高財務責任者

ローリー・マクマホン、最高開発 & コミュニケーション責任者

ニコラス・セイレス、最高執行責任者
ヘザー・シン普森、最高プログラム責任者

インターナショナル・ディレクター

マイケル・パウアーズ、プログラム・オペレーションズ バイス・プレジデント

ディネッシュ・シュレスタ、共同創設者兼ワールド・オペレーションズ部ディレクター

ディーバク・ドグラ、アジア・プログラム・オペレーションズ部ディレクター

ポール・キランブヤ、アジア・プログラム・オペレーションズ部ディレクター

ソラブ・ベネジ、インド担当ディレクター

バンサ・チア、カンボジア担当ディレクター

バネッサ・フランシス、南アフリカ地域担当ディレクター

シェバンティ・ジャヤスリヤ、スリランカ担当ディレクター

ジュベナリウス・クルエテラ、タンザニア担当ディレクター

ニュオン・ニエン、ベトナム担当ディレクター

ラクヒ・サカー、バングラデシュ担当ディレクター

パシュカ・シュレタ、ネパール担当ディレクター

ノカム・ソファヌボン、ラオス担当ディレクター



財務報告

ルーム・トゥ・リードの活動は、寛大さに溢れる世界的なネットワークによって支えられています。サポーターの皆さまからのご厚意が、各コミュニティで大きなインパクトとなっていることをご理解いただけるよう、最大限の財務効率と透明性をもって全力で運営しています。

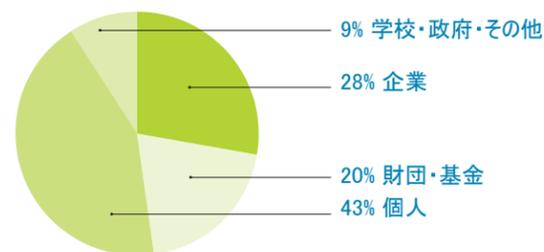
財務ハイライト

現金による寄付
5,720万
米ドル

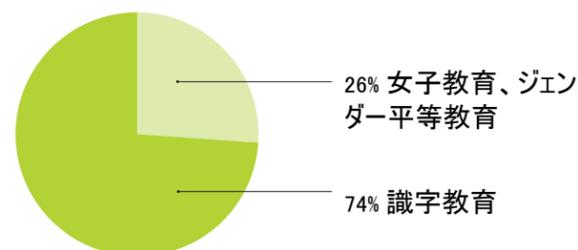
物資・サービスによる寄付
480万
米ドル

プログラムに使用した割合
87%

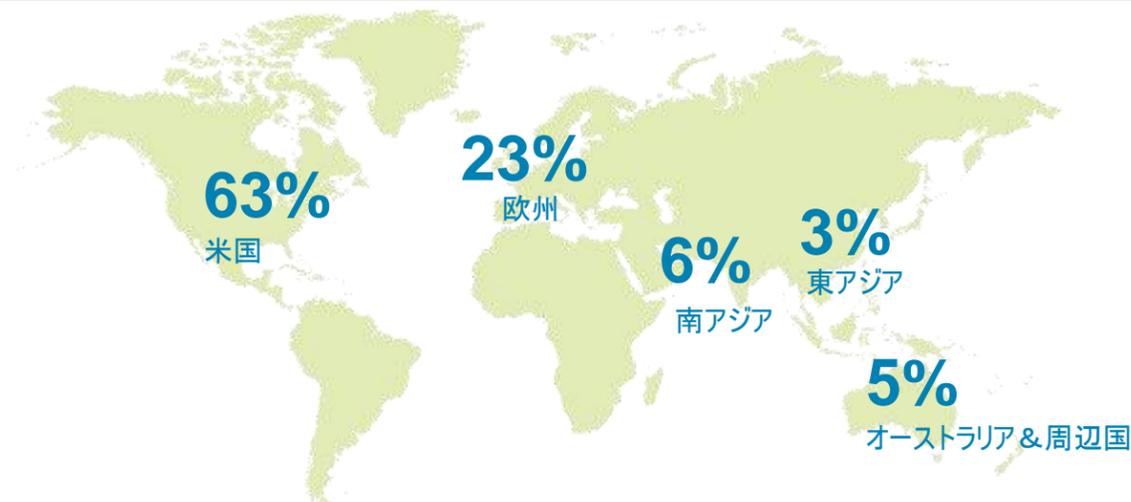
投資者タイプ別 寄付内訳



プログラム別費用支出内訳



地域別収益源



活動報告書

2019年12月31日～2020年12月31日(米ドル)

	2020年	2019年
支援および収益		
企業	\$15,862,424	\$15,976,393
財団・基金	\$11,489,283	\$7,436,478
個人	\$24,755,890	\$26,536,366
学校・その他	\$5,073,051	\$4,422,450
寄付合計	\$57,180,648	\$54,371,687
寄付収入	\$55,000	\$398,563
物資・サービス寄付	\$4,757,294	\$6,009,462
投資およびその他の収益(損失)、特別イベント出費、諸費用	\$66,114	\$(140,264)
支援および収益合計	\$62,059,056	\$60,639,448
運営経費		
プログラム運営		
識字教育	\$31,101,264	\$35,020,489
女子教育、ジェンダー平等教育	\$10,700,299	\$11,361,030
プログラム運営費合計	\$41,801,563	\$46,381,519
運営・管理費	\$1,876,847	\$1,960,470
資金調達活動	\$4,344,585	\$5,176,125
運営経費合計	\$48,022,995	\$53,518,114
純資産変化額(寄贈者に制限なし)	\$12,013,585	\$2,622,538
純資産変化額(寄贈者に制限あり)	\$2,338,103	\$4,507,663
年初の純資産変化額(寄贈者に制限なし)	\$14,818,793	\$12,196,255
年初の純資産変化額(寄贈者に制限あり)	\$15,123,776	\$10,616,113
年度末純資産額	\$44,294,257	\$29,942,569

ルーム・トゥ・リードの財務報告書は、認定を受けた独立公認会計士によって監査されており、ホームページ上でも入手可能です。

参加



教育への投資

ルーム・トゥ・リードへの寄付は、教育を通じて、世界中の何百万人もの子どもたちの生活を大きく変えるための活動に役立てられています。

教育再生基金

近年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の急増は、あらゆる側面で私たちの手に負えない状況を生み出しています。しかし、教育の機会まで諦めてしまう必要はありません。実際のところ、教育は、困難や喪失感に直面している何百万人もの人々にとって、安定感、安らぎ、希望をもたらす極めて重要な源泉です。そのため、私たちは、教育再生基金（Education Resilience Fund）を設立しました。教育を支えている子どもたちや家族が、この困難な時期を乗り越えられるよう支援しています。世界中の子どもたちが学習を続けられるよう、この基金を通じて、支援を最も必要としている地域と時期にリソース投入します。詳しくは、ルーム・トゥ・リードの [ウェブサイト（日本語）](#) をご覧ください。

グローバル・ムーブメント

世界中で活動を支えてくださる何千人もの情熱的で献身的なボランティアの皆さんには心から感謝しています。各国にあるチャプター（支部）は、それぞれのコミュニティでの募金活動や認識度を高める活動を通じて、ルーム・トゥ・リードの成功を支えています。

サポーターになりませんか。まずは、[活動ブログ（日本語）](#)をご覧ください。

写真・デザイン・クレジット

現地訪問

パートナー・コミュニティを訪問して、ぜひ、ルーム・トゥ・リードの活動の様子をご覧ください。まだコロナ禍による渡航制限が行われている状況ですが、プロジェクトについて学んだり、現地チームと会ったり、プログラムに参加している子どもたち、保護者、教育者などと交流したりできます。長年のサポーターにとっても、私たちの活動についてこれから学び始める方も、実際にルーム・トゥ・リードならではの体験をすることで、身の回りに対する自分の立ち位置の見方が変わります。

ソーシャル・メディア

ルーム・トゥ・リードのグローバル・コミュニティの一員になりませんか？オンラインで参加して、非識字とジェンダー不平等の問題を一緒に解決していきましょう。

Facebook: [/RoomtoRead](#)（英語）

[RoomtoReadJP](#)（日本語）

Instagram: [@RoomtoRead](#)（英語）

[@roomtoread_jp](#)（日本語）

Twitter: [@RoomtoRead](#)（英語）

[@roomtoread_jp](#)（日本語）

YouTube: [/RoomtoRead](#)（英語）

[RoomtoReadJP](#)（日本語）

LinkedIn: [/company/Room-to-Read](#)（英語）



アートワーク: ルーム・トゥ・リード発行のベトナム語の児童書『*The Squirrel's Journey* (仮訳: *リスのぼうけん*)』(ドウ・タイ・タン著・挿絵)。

デザイン: メラニー・ドハーティー・デザイン

写真: 表紙: サイカット・モジュンダー、内表紙: ナンダン・テイブ、ページ 2 & 3: タン・タン・グエン&カン・タイ、ページ 4 & 5: アン・ホームズ、ページ 8 & 9: ルーム・トゥ・リードの写真家、ページ 11: ダニエル・ヘイドウク、ページ 12: スポド・シュレスタ、ページ 13: サンジェイ・K・シン、ページ 14: アビシェーク・カシュワハ、ページ 15: シャシ・カント・シン、ページ 17: ジェイソン・ムリキータ、ページ 18 & 19: サンジャヤ・メンディス、ページ 20: パトリシア・アンドリュース・フィアロン、ページ 21: ジュリアス・マヘラ、ページ 22: チャウ・ドアン、ページ 24 & 25: グエン・ミン・ドック、ページ 27: 「Creators for Change」シリーズ、オバマ財団ガールズ・オポチュニティ・アライアンス、ページ 29: ビピン・シュレスタ、ページ 31: マニソン・フィラティボン、ページ 32: パンフィラ・サイザナボンフェット、ページ 33: ジェイソン・ムリキータ、ページ 34: ウィレム・ドランゲ、ページ 35: ピターズウィート・メディア、ページ 38: サンジェイ・K・シン、裏表紙: ジャスパー・ドースト



Room to Read®

子どもの教育が世界を変える®



© 2021 Room to Read. All rights reserved.

ルーム・トゥ・リードのグローバル・オフィス: コロンボ、ダッカ、デリー、ホーチミン、香港、カドマンズ、ロンドン、ムンバイ、ナイロビ、ニューヨーク、プレトリア、サンフランシスコ、シンガポール、シドニー、東京・市川、ワシントンDC、チューリッヒ

このページのアートは、ルーム・トゥ・リードが発行した南アジアの児童書『Elephant Runs (仮訳: ぞうがはしる)』(イラスト: イラナ・エグセルビー、文章: ルーム・トゥ・リード・スタッフ)の一部です。